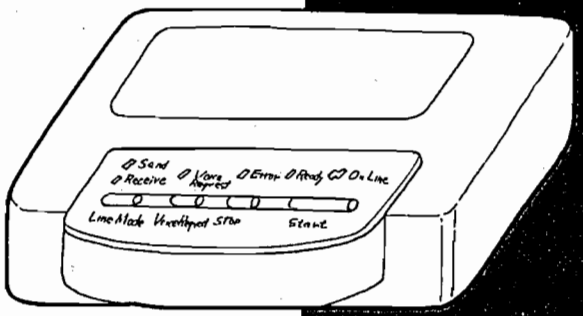
FUJI XEROX®

写楽 FA1

Fax Adapter

取扱説明書



FUJI XEROX®
富士ゼロックス株式会社
本社 〒107東京都港区赤坂3-3-5
電話 03(585)3211

1版1刷
1990年2月
帳票No.TS-1117

写楽FA1の主な特長

- FAXが設置されていない学校の教室や会議室などで、手軽に送信や受信ができます。
- パーティの案内状など、自宅から手軽にFAXで送れます。
- 通信(送信および受信)の後に、続けて会話をすることもできます。通信内容についての話をしたいときに便利です。

- 電話が設置されているところに限ります。

- 写楽FA1は、ハンディ転写マシン写楽IIIと接続することにより、FAXとして機能させる機械です。写楽III以外ではご使用になれません。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で転載することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気付きの点がございましたら弊社までご連絡ください。
④ お客様が機器を運用された結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。

[XEROX]は登録商標です。

はじめに

このたびは、富士ゼロックス 写楽FA1(Fax Adapter)をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
写楽FA1は、写楽III専用のFAXアダプターです。写楽FA1に写楽IIIと電話回線を接続することによりFAXとなり、G3規格のFAXと交信ができます。
この取扱説明書は、機械の操作方法および使用上の注意事項について記載してあります。
機械の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をお読みください。お読みになったあとも大切に保管してください。

1990年2月
富士ゼロックス株式会社

■本書の記号の見方
本書は説明する内容によって、以下の記号を使用します。
- 注意が必要な項目が記述されています。
- 特に注意が必要な項目が記述されています。
- 参照するページなどが記述されています。
- ◎ 補足事項が記述されています。

この装置は、第二種情報装置(住宅地域、またはその隣接した地域においても使用できる情報装置)で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報装置など電波障害自主規制協議会(VCCI)基準に適合しております。
しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。
「取扱説明書」にしたがって正しい取り扱いをしてください。

目次

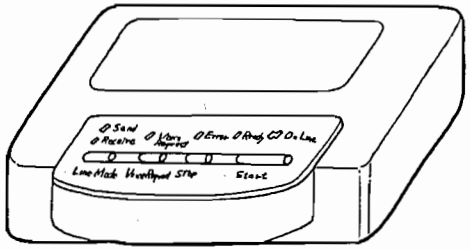
写楽FA1の主な特長
はじめに
本書の記号の見方

内容品を確認しましょう 1
届け出を済ませましょう 2
使用上のご注意 3
各部の名称とはたらき 6
機械のつなぎかた 8
送信のしかた 10
　相手(受信)機がカット紙の記録紙を持つFAXの場合の送られかた 13
受信のしかた 14
　複数原稿の受信のしかた 17
送信してから電話で話す(会話予約) 18
受信してから電話で話す(会話予約) 20
原稿比率と画質について 22
　原稿比率について 22
　画質について 24
故障かなと思ったら 25
　自己診断のしかた 27
主な仕様 28
アフターサービス 29

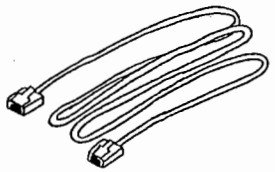
内容品を確認しましょう

写楽FA1がお手もとに届きましたら、以下のものがそろっているかを、まずお確かめください。もし不足品がありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

写楽FA1本体

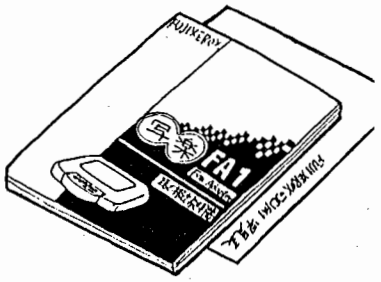


テレフォンコード
(電話回線用)
写楽FA1と室内の回線接続口を結ぶコードです。



写楽FA1接続ケーブル
(写楽IIIとの接続用)
写楽FA1と写楽IIIの接続口を結ぶケーブルです。

取扱説明書



保証書
ご愛用者カード
プライスカード
端末設備接続(変更)請求書

届け出を済ませましょう

写楽FA1設置にあたり、日本電信電話株式会社(以下NTTと略します)への届け出が必要です。付属の端末設備接続(変更)請求書に必要事項をご記入の上、最寄りのNTT窓口へ必ずご送付ください。

記入例

端末設備接続(変更)請求書(ファクシミリ端末用)

日本電信電話株式会社
(支店・営業所)
ご契約者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

下記の通り端末設備を設置するので提出します。
記

1. 端末機器名等(新設又は変更後)

番号	機器名	適合認定・形式認定番号等
1	写楽FA1	S89-2163-0
2		
3		

2. 端末機器を取り付ける電話番号:＿＿＿＿＿＿＿＿
3. 端末機器を取り付ける場所(住所):
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

4. 連絡先

故障時の連絡先	会社名		
	氏名		Tel.
契約者の連絡先等	会社名等		
	氏名		Tel.
工事担任者名 *			Tel.

*工事担任者が必要な工事を行う場合に記入する。

5. 使用開始年月日:＿＿＿＿年＿＿月＿＿日

注) この様式は、適合認定番号又はNTT型式の指定番号がすべて明確になっている端末設備を接続請求する場合にご利用下さい。

写楽FA1を接続する電話の契約者名を記入します。

押印します。

写楽FA1を接続する電話番号を記入します。

写楽FA1を使う場所の所在地を記入します。

お買い上げの販売店または最寄りの「富士ゼロックスお客様相談センター」の連絡先などを記入します。

写楽FA1を接続する電話の契約者の連絡先などを記入します。

工事担任者により必要な工事(ローゼットタイプなど)が行われたときに記入します。

写楽FA1の使用開始日を記入します。

使用上のご注意

■設置場所について

次のような場所は故障の原因となりますので避けてください。

- 直接日光の当たる場所
- ストーブ、ヒーターなどに近い場所
- 温度が急激に変化する場所
- 高温、多湿の場所
- 換気の悪い場所
- ほこりや振動の多い場所
- 揮発性可燃物に近い場所

■取り扱い上のご注意

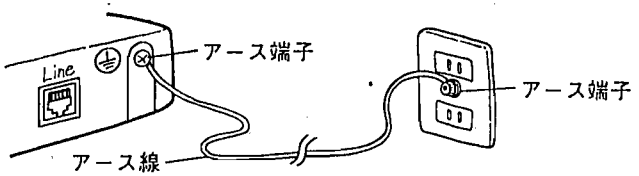
- 写楽FA1は、国内仕様です。海外での使用はできません。
- この取扱説明書に記載されていない事項は行わないでください。思わぬ故障や事故を起こす原因になることがあります。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。破損や故障の原因となります。
- 絶対に分解しないでください。故障の原因となります。
- 通信中に写楽FA1と写楽IIIの接続をはずしたりしないでください。

■アースについてのお願い

万一の危険防止、落雷からの機械保護のため、アース線(AWG#18以上の太さのワイヤー)の取り付けをお勧めいたします。
アース線を接続する場所(端子)を用意してください。

- 接地工事(第1種～第3種)を行っている接地端子
- 水道局がアースの対象物として許可した水道管

ガス管、電話専用アース、避雷針、配管の途中でプラスチックになっている水道管などには、絶対に接続しないでください。



■落雷について

写楽FA1には落雷からの保護回路が内蔵されていますが、付近に雷が発生したときは、写楽IIIとの接続をはずして雷がおさまるのをお待ちください。

■受信障害について

ラジオの雑音、テレビなどの画面に発生するチラツキ、ゆがみが写楽FA1による影響と思われましたら、写楽IIIの電源スイッチをいったん切ってください。電源スイッチを切ることにより、ラジオやテレビなどが正常な状態に回復するようでしたら、次の方法を組み合わせて障害を防止してください。

①写楽FA1とラジオやテレビなどの距離を離してみる。
②写楽FA1とラジオやテレビ双方の位置や向きを変えてみる。
③アンテナ線を同軸ケーブルに変えてみる。
④受信アンテナや、アンテナ線の配置を変えてみる(注:屋外にある場合は、電気店などにご相談ください)。

■接続する電話回線について

キャッチホンなどのサービスをご利用の場合は、正しく動作しないことがありますので、ご注意ください。

■日常の管理について

- 写楽FA1の上に重いものを載せたり、衝撃を与えないでください。
- 写楽FA1に水がかかると絶縁が悪くなり危険です。水の入った花瓶やコップなどを、写楽FA1の上に載せないでください。
- 写楽FA1の内部やすき間に、クリップやホチキスの針などの金属片を落とさないように注意してください。

■日常のお手入れについて

本体は柔らかい乾いた布でふいてください。シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤や化学ぞうきんでふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。

■コピー禁止事項

ご自分で利用するものだからといって、何をコピーしてもよいとは限りません。法律によって、単にコピーを所有するだけでも罰せられるものもありますので、注意してください。

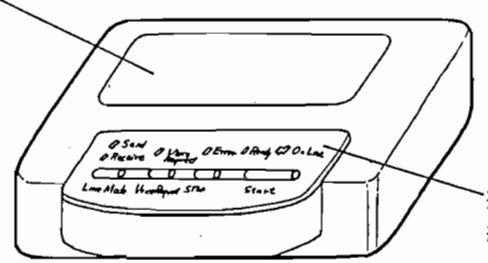
- 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券をコピーすることは禁止されています(見本の印が押印されていてもコピーすることは禁止されています)。
- 政府の模造許可をとらない限り、未使用の郵便切手、官製ハガキなどをコピーすることは禁止されています。
- 外国において流通する紙幣、貨幣、証券類をコピーすることは禁止されています。
- 政府発行の印紙、法令で規定されている証券類をコピーすることは禁止されています。
- 民間発行の有価証券(株券、手形、小切手など)、定期券、回数券などは、事業会社が業務に使用するための最低必要部数をコピーする以外は、政府の指導によって、注意を呼びかけられています。
- 政府発行のパスポート、公共団体発行の免許証、許可証、身分証明書や通行券、食券などの切手類も勝手にコピーしない方がよいと思われます。
- 著作権の目的となっている書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真などの著作物は、個人にまたは家族内その他、これに準じる限られた範囲内で使用するためにコピーする以外は禁じられています。

各部の名称とはたらき

■写楽FA1本体

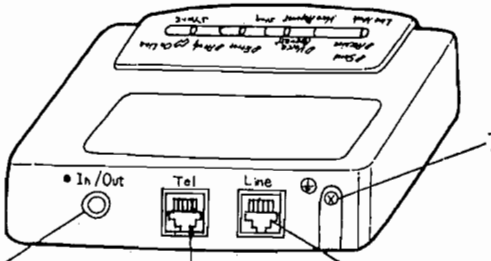
写楽III受け
写楽IIIをセットする台です。
写楽IIIのリード部、リード
ローラーを保護します。

正面



操作パネル
操作ボタン、表示ランプ
がまとめられています。
➔7ページ

背面



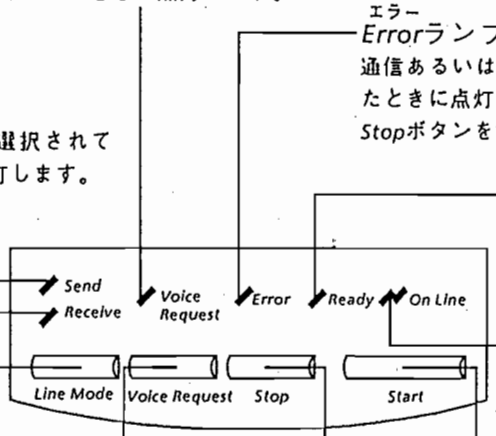
アース端子

インアウト
In/Outコネクター
付属の写楽FA1接続ケーブルで写楽IIIと接続するための端子です。

テル
Telコネクター
電話機の既存コードで電話機と接続するための端子です。

ライン
Lineコネクター
付属のテレフォンコードで電話回線と接続するための端子です。

■操作パネル



レシーブ
Receiveランプ
写楽IIIの電源を入れたとき、また受信モードが選択されているときに点灯します。

ボイス リクエスト
Voice Requestランプ
会話予約が選択されているときに点灯します。

エラー
Errorランプ
通信あるいは機械の異常が発生したときに点灯します。
Stopボタンを押すと消灯します。

センド
Sendランプ
送信モードが選択されているときに点灯します。

レディ
Readyランプ
通信が可能な状態のときに点灯します。通信中は消灯します。

ライン モード
Line Modeボタン
送信モードと受信モードの選択をするときに押します。

ボイス リクエスト
Voice Requestボタン
会話予約/会話予約の取り消しを行うときに押します。

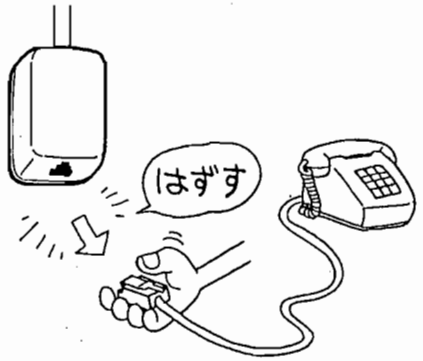
オン ライン
On Lineランプ
回線が写楽FA1に切り替わると点滅、通信が始まると点灯します。

ストップ
Stopボタン
エラーが発生したとき、また処理を中止するときに押します。

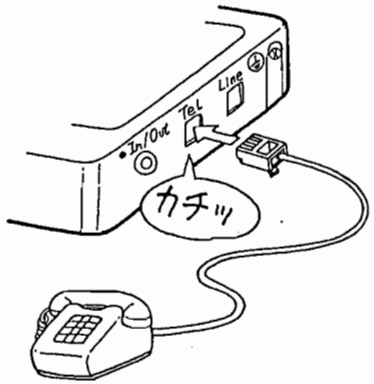
スタート
Startボタン
送信/受信を開始するときに押します。

機械のつなぎかた

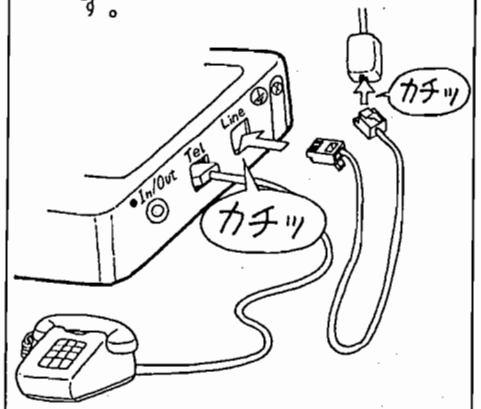
1 電話機の既存コードを、プラグのつめを押しながらローゼットからはずします。



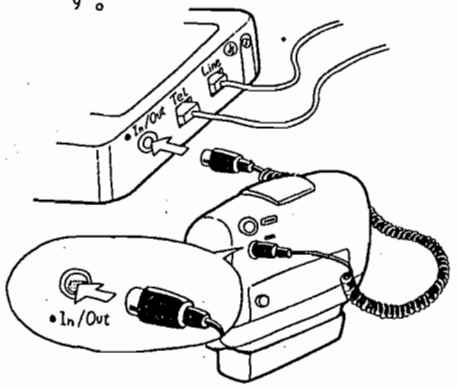
2 *1*ではずしたコードを、写楽FA1の*Tel*コネクターに接続します。



3 付属のテレフォンコード(電話回線用)を写楽FA1の*Line*コネクターとローゼットに接続します。



4 付属の写楽FA1接続ケーブル(写楽IIIとの接続用)を写楽FA1の*In/Out*コネクターと写楽IIIの*In/Out*コネクターに接続します。

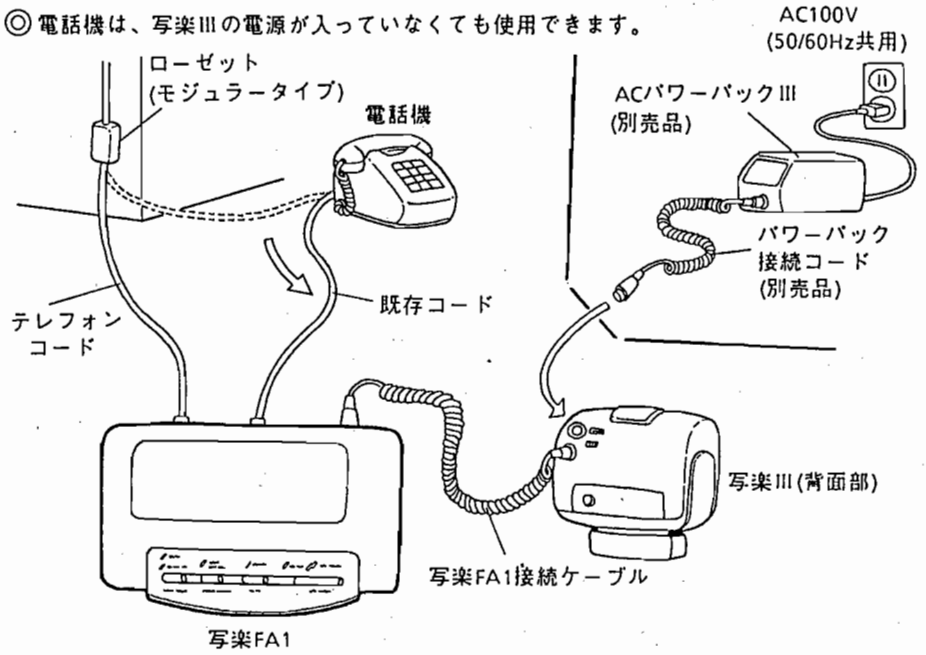


- モジュラータイプ以外のローゼットをお使いになっている場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 写楽FA1の電源は写楽IIIより供給されますので、写楽IIIはあらかじめ充電されている必要があります。
  ただし、ACパワーパックIII(別売品)をご使用になっている場合は、充電する必要はありません。また、ACパワーパックIIIをご使用にならないときは、電源コンセントをはずしておいてください。
  ➔写楽IIIの充電のしかたについては「写楽III取扱説明書」の「充電…」を参照してください。
- 写楽FA1をご使用にならないときは、写楽IIIの電源を切っておいてください。

接続を確認しましょう

写楽IIIの*Power*ボタンを押し、*Power "On"*ランプを点灯させます。
写楽FA1の*Ready*ランプ、*Receive*ランプが点灯し、受話器を取ると「ツー」という発信音が聞こえます。

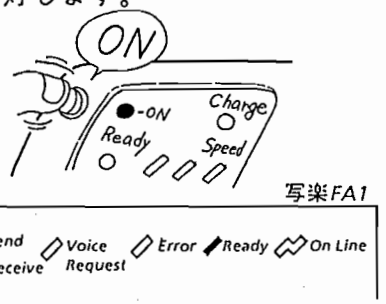
◎電話機は、写楽IIIの電源が入っていなくても使用できます。



送信のしかた

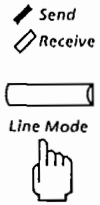
写楽IIIで読み取ったデータを写楽FA1で送ります。

1 写楽IIIの電源を入れます。
写楽FA1のReadyランプ、Receiveランプが点灯します。

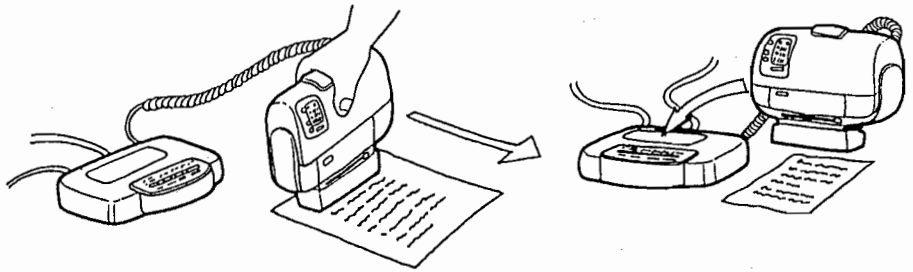


◎写楽FA1と写楽III、電話回線がつながっていない場合は、写楽FA1と写楽III、電話回線をつなげてください。
➔「機械のつなぎかた」(8ページ)を参照してください。

2 Line Modeボタンを押し、Sendランプを点灯させます。



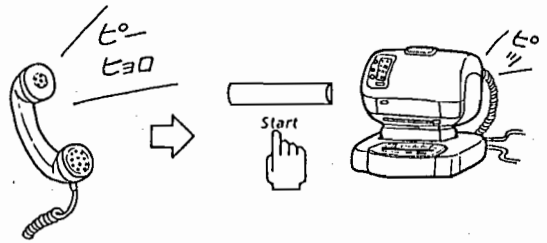
3 送信したい原稿を写楽IIIで読み取り、写楽III受けにセットします。
➔写楽IIIの読み取りかた、注意事項については「写楽III取扱説明書」の「読み取り…」を参照してください。



◎
- 写楽III受けに写楽IIIをセットしなくても送信できますが、写楽IIIのリード部、リードローラー保護のため、写楽III受けにセットしてください。
- 送信は写楽IIIのどちらのモード(リードモード、ライトモード)でも行えます。

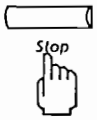
4 受話器を取り、相手先にダイヤルします。
相手と会話し、相手機を受信状態にしてもらいます。
相手機が自動受信の場合には、会話の必要はありません。

5 受話器から「ピーヒョロ」という音が聞こえてきたら、Startボタンを押します。
写楽IIIが「ピッ」と鳴ります。

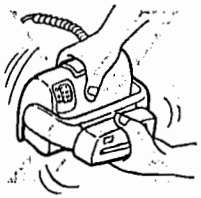


◎相手機が手動受信の場合、相手が手動受信ボタンを押し、受話器を戻すなどの操作が行われると、受話器から「ピーヒョロ」という音が聞こえてきます。

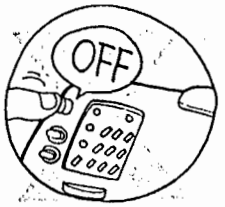
操作を中止するとき
Stopボタンを押します。
通信の操作を強制的に終了します。



データの保護のため、送信中に写楽IIIのモード(リードモード、ライトモード)を切り替えたりしないでください。

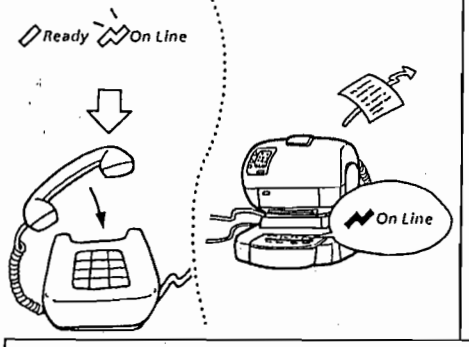


送信中に写楽IIIの電源を"Off"にしないでください。データが送信できなくなります。

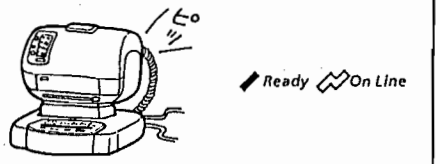


続く

6 On Lineランプが点滅したら、受話器を戻します。
しばらくすると、点滅していたOn Lineランプが点灯し、送信が開始されます。



7 送信が正常に終了すると、On Lineランプが消灯し、写楽IIIの終了音「ピッ」が鳴ります。
Readyランプが点灯し、通信可能状態になります。

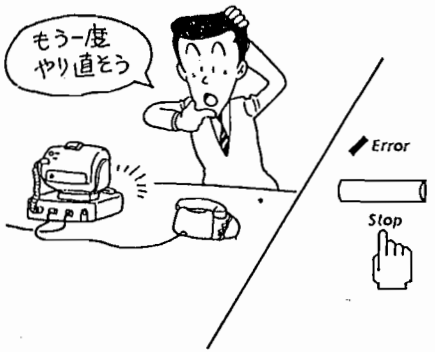


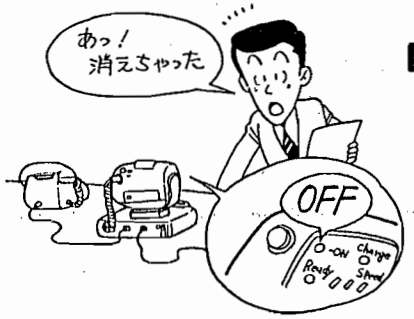
Errorランプが点灯したら

エラーが発生した場合、写楽IIIが「ピー」と鳴り(約5秒間連続)、Errorランプが点灯して通信を中止します。
このとき、通信エラーのみの場合には写楽IIIで読み取ったデータは残っています。ただし、写楽IIIの電源を"Off"にすると、読み取ったデータは消えてしまいますので、注意してください。

- 写楽FA1と写楽III、電話回線が正しくつながっているかを確認してください。
  ➔「機械のつなぎかた」(8ページ)を参照してください。
- Stopボタンを押し、もう一度送信操作4から行ってください。

➔この他に原因があると思われた場合は「故障かなと思ったら」(25ページ)を参照してください。



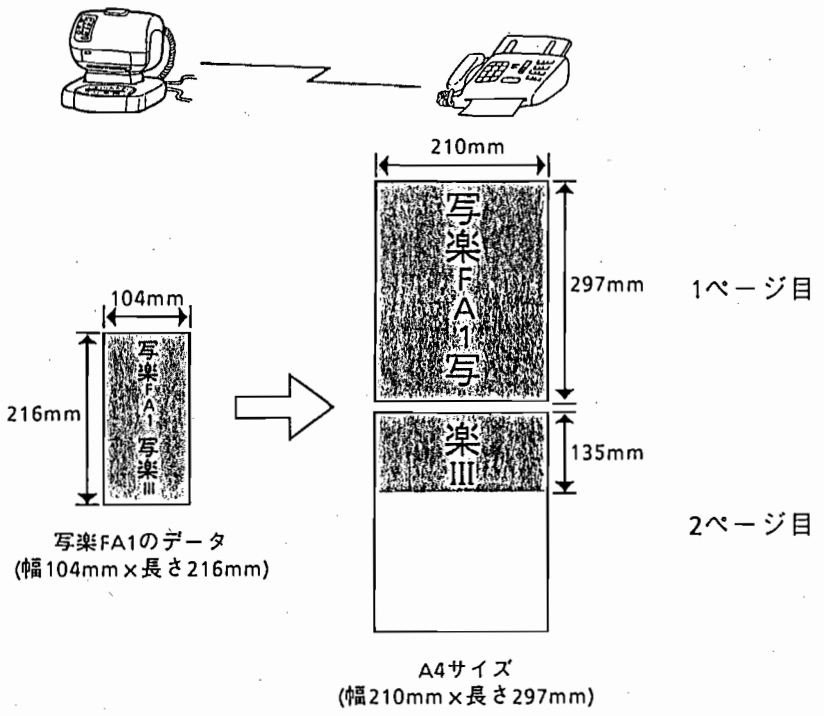


写楽IIIは6分経過すると自動的に電源が切れます(オートパワーオフ)。そのとき、すでにあるデータは消えてしまいますので、注意してください。
(ただし、ACパワーパックIII(別売品)をご使用になっている場合は、自動的に電源は切れません)。

■相手(受信)機がカット紙の記録紙を持つFAXの場合の送られかた

写楽IIIで読み取ったデータが、相手(受信)機にセットされているカット紙より長いと、データが2ページに分割されて送られます。

[例] 写楽FA1でデータを送信し、G3規格のFAXで受信するとき
(A4サイズの記録紙がセットされている場合)



写楽FA1のデータ
(幅104mm×長さ216mm)

A4サイズ
(幅210mm×長さ297mm)

1ページ目と2ページ目の間で相手(受信)機から会話予約があると、会話をするしないにかかわらず、写楽FA1は送信を終了してしまい、2ページ目のデータが送られません。

➔会話予約については18、20ページを参照してください。

受信のしかた

写楽FA1で受信したデータを写楽IIIで転写します。

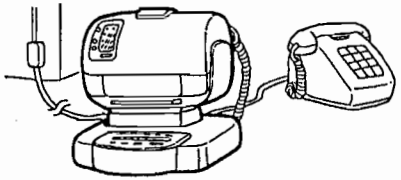
1 電話のベルが鳴ったら受話器を取り、相手と会話します。

自動受信は行えません。

2 写楽FA1と写楽III、電話回線がつながっていない場合はつなげてください。

「機械のつなぎかた」(8ページ)を参照してください。

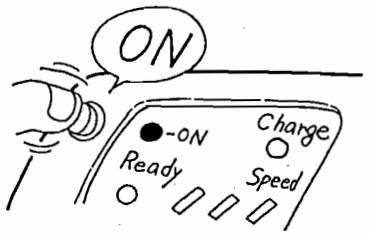
写楽FA1と電話回線がつながっていない場合は、いったん電話を切ってから写楽FA1と電話回線をつなげ、再度電話をしてください。



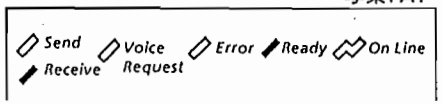
◎
- 写楽III受けに写楽IIIをセットしなくても受信できますが、写楽IIIのリード部、リードローラー保護のため、写楽III受けにセットしてください。
- 受信は写楽IIIのどちらのモードでも行えます。

3 写楽IIIの電源を"On"にします。

写楽FA1のReadyランプ、Receiveランプが点灯します。



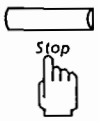
写楽FA1



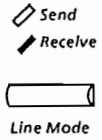
操作を中止するとき

Stopボタンを押します。

通信の操作を強制的に終了します。



4 Receiveランプが点灯していることを確認します。

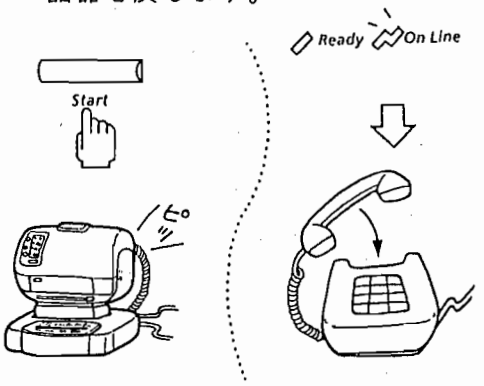


◎ Receiveランプが点灯していない場合は、Line Modeボタンを押し、Receiveランプを点灯させます。

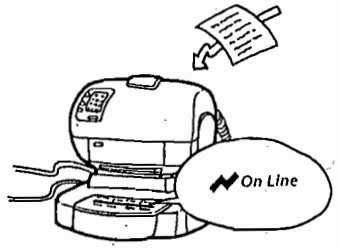
5 Startボタンを押します。

写楽IIIが「ピッ」と鳴ります。

On Lineランプが点滅したら、受話器を戻します。

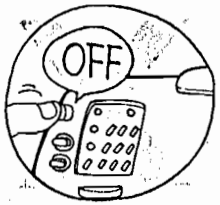


6 相手が送信を開始すると、点滅していたOn Lineランプが点灯し、受信が開始されます。



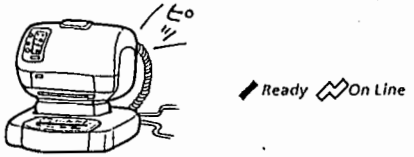
データの保護のため、受信中に写楽IIIのモード(リードモード、ライトモード)を切り替えたりしないでください。

受信中に写楽IIIの電源を"Off"にしないでください。データが受信できなくなります。



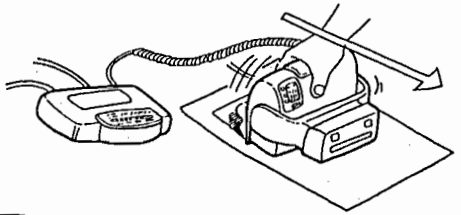
続く

7 受信が正常に終了すると、*On Line*ランプが消灯し、写楽IIIの終了音「ピッ」が鳴ります。*Ready*ランプが点灯し、通信可能状態になります。



8 受信したデータを、写楽IIIで転写します。

➔写楽IIIの転写のしかた、注意事項については「写楽III取扱説明書」の「転写は…」を参照してください。



転写せずに受信すると、すでにあるデータは消え、新しいデータが入ります。転写する前に新しいデータを受信しないよう注意してください。

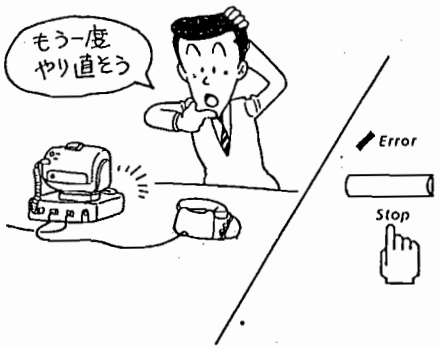
➔「複数原稿の受信のしかた」(17ページ)を参照してください。

Errorランプが点灯したら

エラーが発生した場合、写楽IIIが「ピー」と鳴り(約5秒間連続)、*Error*ランプが点灯して通信を中止します。

- 写楽FA1と写楽III、電話回線が正しくつながっているかを確認してください。
  ➔「機械のつなぎかた」(8ページ)を参照してください。
- *Stop*ボタンを押し、もう一度受信操作*1*から行ってください。

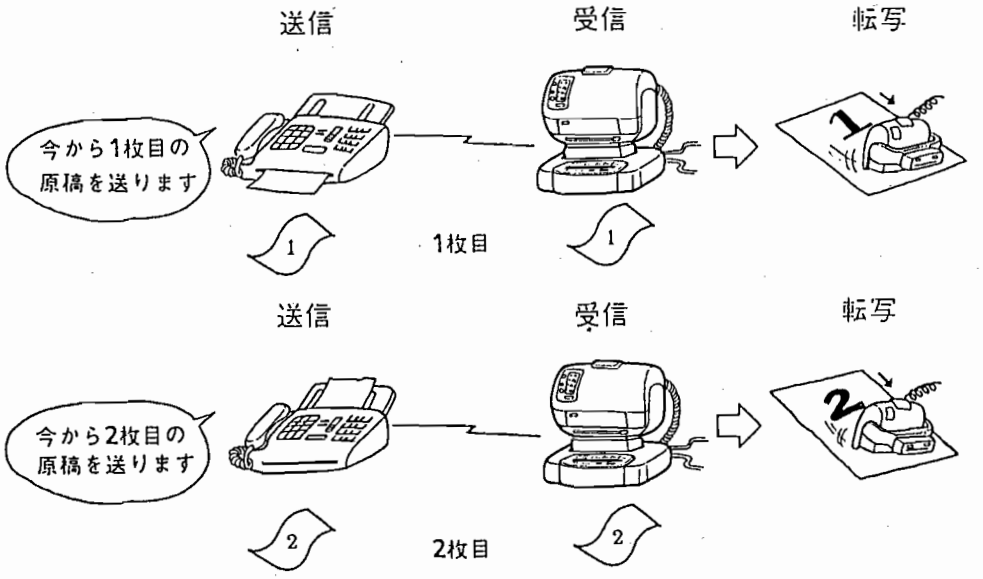
➔この他に原因があると思われた場合は「故障かなと思ったら」(25ページ)を参照してください。



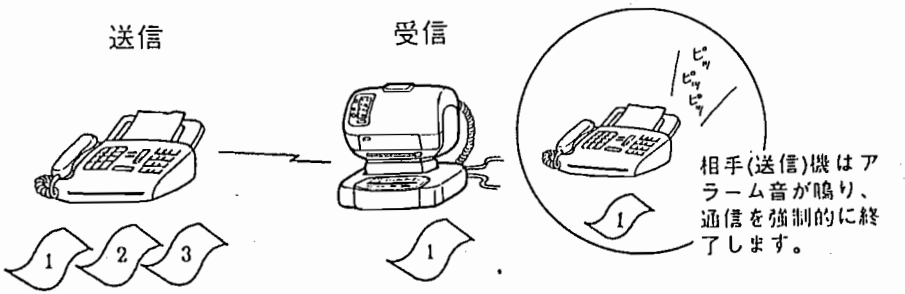
- 写楽IIIをライトモードで転写後、リードモードに替え、少しでも読み取り操作を行うと、受信したデータはなくなります。
- 写楽IIIは6分経過すると自動的に電源が切れます(オートパワーオフ)。そのとき、すでにあるデータは消えてしまいますので、注意してください。
  (ただし、ACパワーパックIII(別売品)をご使用になっている場合は、自動的に電源は切れません)。

■複数原稿の受信のしかた

複数枚ある原稿を受信する場合は、1枚ずつ受信し、1枚ずつ転写をしてください。



写楽FA1で複数枚ある原稿を受信する場合、以下のようになります。



3枚一緒に送ろうとしても…　1枚目しか受信されません

送信してから電話で話す(会話予約)

送信後に電話で話すことができます。
通信内容について、相手とすぐに話したいときにご利用ください。

1 原稿を写楽IIIで読み取り、送信を開始します。

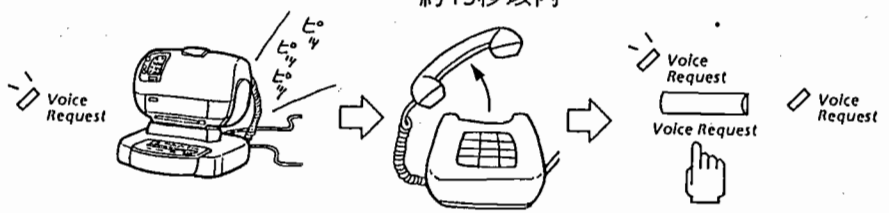
➔送信のしかたについては「送信のしかた」(10ページ)を参照してください。

2 送信が終了する前までにVoice Requestボタンを押し、Voice Requestランプを点灯させます。

送信終了後(写楽IIIの終了音が鳴った後)にVoice Requestボタンを押しても、この通信での会話予約はできません。

3 送信が終了すると、Voice Requestランプが点滅し、写楽IIIが「ピッピッ‥」と鳴ります。
鳴っている間(約15秒以内)に受話器を取り、Voice Requestボタンを押してVoice Requestランプを消灯させます。

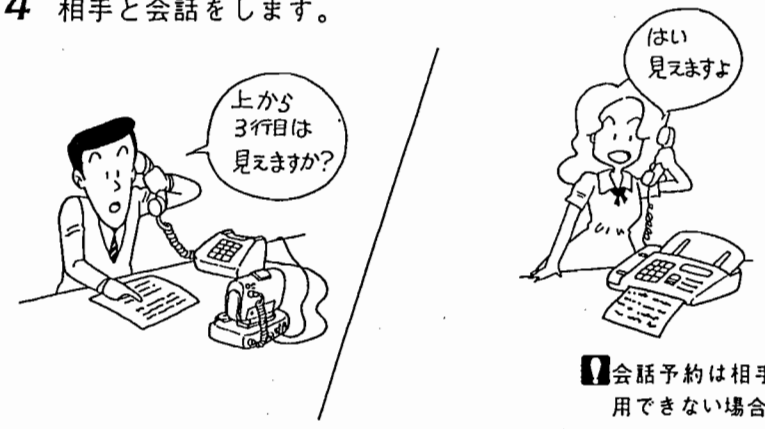
約15秒以内



Voice Requestランプが点滅を始めてから、約15秒以内に受話器を取り、Voice Requestボタンを押さないと、会話予約は自動的に解除されます。

◎Voice Requestボタン以外に、Stopボタン、Startボタンを押しても会話はできます。

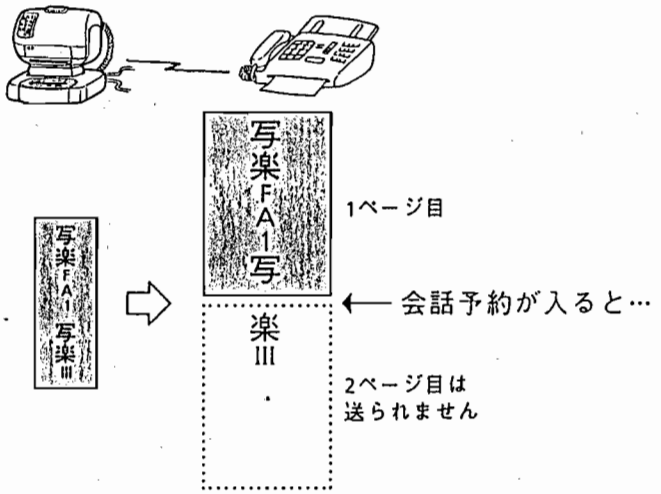
4 相手と会話をします。



会話予約は相手機によって使用できない場合があります。

相手(受信)機がカット紙の記録紙を持つFAXの場合、写楽IIIで読み取ったデータが、相手(受信)機にセットされているカット紙より長いと、データが2ページに分割されて送られます。
1ページ目と2ページ目の間で相手(受信)機から会話予約があると、会話をするしないにかかわらず、写楽FA1は送信を終了してしまい、2ページ目のデータが送られません。

➔「相手(受信)機がカット紙の記録紙を持つFAXの場合の送られかた」(13ページ)を参照してください。



受信してから電話で話す(会話予約)

受信後に電話で話すことができます。通信内容について、相手にたずねたいときにご利用ください。

1 受信を開始します。

➔受信のしかたについては「受信のしかた」(14ページ)を参照してください。

2 受信が終了する前までにVoice Requestボタンを押し、Voice Requestランプを点灯させます。

受信終了後(写楽IIIの終了音が鳴った後)にVoice Requestボタンを押しても、この通信での会話予約はできません。

3 受信が終了すると、Voice Requestランプが点滅し、写楽IIIが「ピッピッ‥」と鳴ります。
鳴っている間(約15秒以内)に受話器を取り、Voice Requestボタンを押してVoice Requestランプを消灯させます。

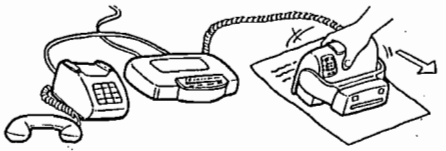
Voice Requestランプが点滅を始めてから、約15秒以内に受話器を取り、Voice Requestボタンを押さないと、会話予約は自動的に解除されます。

◎Voice Requestボタン以外に、Stopボタン、Startボタンを押しても会話はできます。

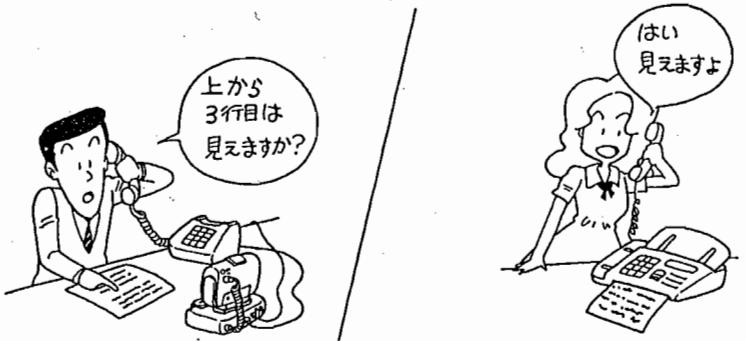
4 相手と会話をします。

5 電話を切らずに、受信したデータを写楽IIIで転写します。

➔写楽IIIの転写のしかた、注意事項については「写楽III取扱説明書」の「転写は…」を参照してください。



6 相手と再度会話をします。



会話予約は相手機によって使用できない場合があります。

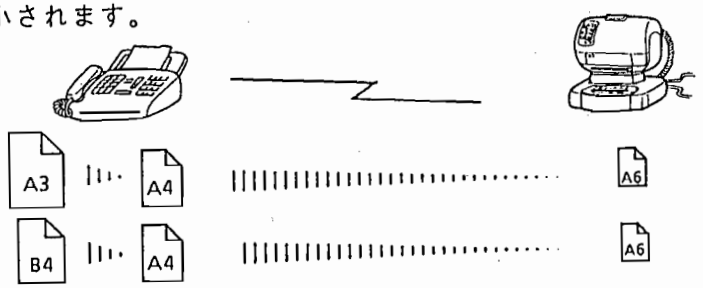
原稿比率と画質について

■原稿比率について

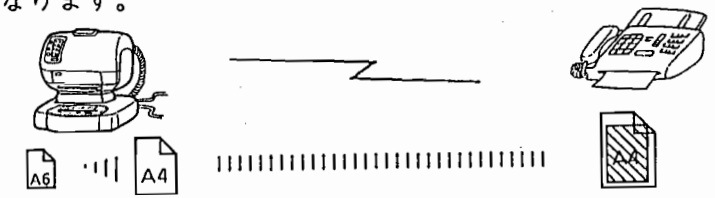
原稿比率の関係は以下のとおりです。

		受信	
		写楽FA1 (A6相当の大きさの場合)	G3規格のFAX (A4相当の大きさの場合)
送信	写楽FA1 (A6相当の大きさの場合)	100%×100% A6	200%拡大 A4
	G3規格のFAX (A4相当の大きさの場合)	50%縮小 A6	100%×100% A4

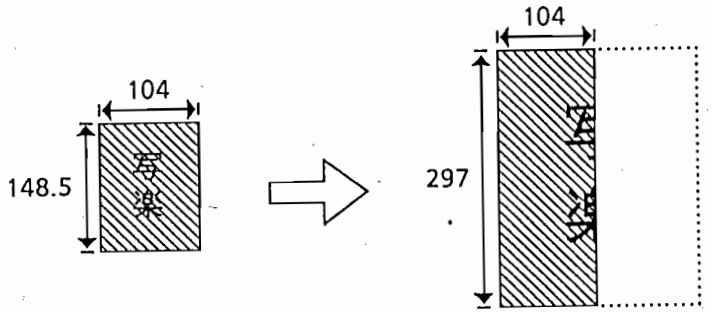
- G3規格のFAXでA3またはB4サイズの原稿を送信した場合、G3規格のFAX内でデータをA4に縮小してから送信し、写楽FA1内でA6のデータに縮小されます。



- 写楽FA1でA6サイズの原稿を送信した場合、写楽FA1内でデータをA4に拡大してから送信し、G3規格のFAXでA4で出力します。そのとき、A3またはB4の用紙しかセットされていない場合でも、データはA4サイズの範囲で出力されます。その際の余白部分はFAXの各メーカーにより異なります。

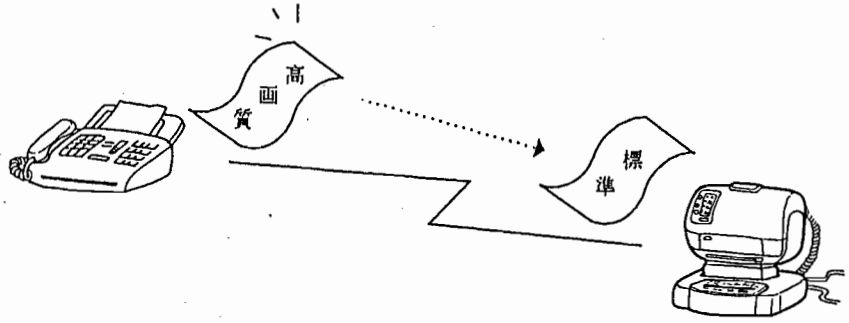


- 写楽FA1で受信したデータを写楽IIIで200%に拡大して転写すると、データの一部しか転写されません。



■画質について

写楽FA1が持っている画質は標準モードのみです。したがって、他のFAXから高画質などの指示があっても標準モードで受信されます。



故障かなと思ったら

写楽FA1が故障ではないかと思われたときは、まず以下の処置を行ってください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または弊社お客様相談センターにご相談ください。

症　状	チェック事項	処　置
*Error*ランプが点灯する *Error*	• 写楽FA1と写楽III、電話回線が正しくつながっていますか。 • テレフォンコードと写楽FA1接続ケーブルを入れ間違えていませんか。	• 写楽FA1と写楽III、電話回線を正しく接続してください。 ➔8ページ
	• 相手機は正常ですか。	• 相手機の状態を確認してください。
	• 電話回線は正常ですか。	• 電話回線の状態を確認してください。
	• 送信時に写楽IIIで原稿を読み取りましたか(トリミングレバーの位置が左端になっていませんか)。	• 写楽IIIのトリミングレバーの位置を確認して、原稿を読み取ってから送信してください*。
*Ready*ランプがつかない *Ready*	• 写楽FA1と写楽IIIが正しくつながっていますか。	• 写楽FA1と写楽IIIを正しく接続してください。 ➔8ページ
	• 写楽IIIのバッテリーが切れていませんか。	• 写楽IIIの充電をしてください*。
送信/受信できない 	• *Send/Receive*モードの設定は正しいですか。	• *Send/Receive*モードを正しく設定してください。 ➔10、14ページ
	• 相手機は正常ですか。	• 相手機の状態を確認してください。
	• 電話回線は正常ですか。	• 電話回線の状態を確認してください。
	• 写楽IIIは正常ですか。	• 写楽IIIの状態を確認してください*。

* 写楽III側に原因および故障があると思われる場合は「写楽III取扱説明書」を参照してください。

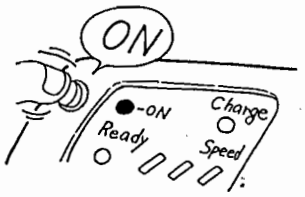
続く

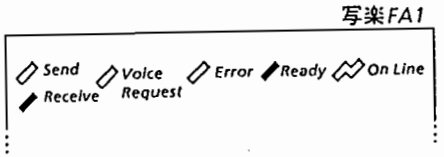
症状	チェック事項	処置
送信/受信できない(続き) 	• 送信時に写楽IIIで原稿を読み取りましたか(トリミングレバーの位置が左端になっていませんか)。	• 写楽IIIのトリミングレバーの位置を確認して、原稿を読み取ってから送信してください*。
	• *Send/Receive*モードの設定も正しく、相手機も正常なのに送信できない。	• *Stop*ボタンを押してから、もう一度送信/受信をやり直してください。 ➔10、14ページ
受信したデータが消えてしまった 	• 写楽IIIの電源を"Off"にしませんでしたか。 • 写楽IIIの電源が切れていませんか。	• 相手先に電話してもう一度送信を依頼してください。 ➔14ページ
受信したデータが消えて新しいデータが入ってしまった 	• 転写せずに受信をしませんでしたか。	• 相手先に電話して消えたデータの送信を依頼してください。 ➔14ページ
会話予約ができない 	• *Voice Request*ボタンを押すタイミングは正しいですか。	• *Voice Request*ボタンは、通信が終了する前までに押してください。 ➔18、20ページ
	• 相手機に会話予約機能がついていますか。	• 会話予約は相手機によって使用できない場合があります。 相手先に会話予約が使用できるか確認してください。

* 写楽III側に原因および故障があると思われる場合は「写楽III取扱説明書」を参照してください。

■自己診断のしかた

自己診断とは、写楽FA1の故障をチェックする機能です。
写楽FA1の自己診断は、写楽IIIの電源を"*On*"にすると自動的に行われます。
したがって、写楽IIIの電源を"*On*"にして、写楽FA1の*Ready*ランプ、*Receive*ランプが点灯すれば正常です。





主な仕様

原稿(読み取り)サイズ	(幅)104mm×(長さ)216mm(最大)
受信(転写)サイズ	(幅)104mm×(長さ)216mm(最大)
原稿比率	写楽III→G3ファックス　A6→A4 G3ファックス→写楽III　A4→A6 写楽III→写楽III　A6→A6(等倍) *A6版は官製はがきのサイズに相当　A4版はA6版の面積比4倍のサイズに相当
適用回線	公衆通信回線
入出力特性	主走査線密度　8dot/mm 副走査線密度　8本/mm
伝送時間	写楽III→G3ファックス(A6→A4)で約60秒
連続通信回数	フル充電の状態で約50通信 (写楽IIIでの読み取り、転写含む)
電源	写楽IIIバッテリーより供給
入力電圧	11.5V DC～15V DC
消費電力	送信時　4W 受信時　4W 待機時　1.5W 最大　4W
重量	650g
機械寸法	(幅)200mm×(奥行)141.5mm×(高さ)47.7mm
設置スペース(参考)	(幅)300mm×(奥行)250mm
使用環境	温度　10℃～32℃ 湿度　15%～85%

- 製品の仕様、外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 消費電力は、各モードにおける最大値を示しています。

アフターサービス

■アフターサービスについて

①保証書

保証書は販売店名、購入年月日などの記入をお確かめの上、販売店より受け取ってください。また、保証書は、内容をよくご覧の上、大切に保管してください。

②修理に出されるとき

保証期間内は保証書の規定に基づいて修理いたします。お買い上げの販売店にご持参ください。

保証期間経過後に関しましても、修理によって使用可能なものについては、ご要望により有料修理いたします。販売店にご持参ください。

③補修用性能部品(機能維持のために必要な部分)の最低保有期間は、製造打ち切り後、7年となっております。

④アフターサービスについてのご不明な点は、お買い上げの販売店または、弊社お客様相談センターにお問い合わせください。

富士ゼロックスに対するご相談などは
最寄りのお客様相談センターへご連絡ください。

東京以外のお客様相談センターへのご連絡は、自動転送により東京でお受けいたします。
その場合の受付地～東京間の電話料金は、弊社で負担させていただきます(自動転送には約20秒ほどかかります)。

●札　幌 (011)241-0414	●横　浜 (045)651-9380	●大　阪 (06) 264-7211
●仙　台 (022)224-8211	●静　岡 (0542)84-8080	●神　戸 (078)291-8080
●新　潟 (025)243-8080	●名古屋 (052)571-9061	●広　島 (082)222-2400
●大　宮 (048)641-9380	●金　沢 (0762)24-0330	●高　松 (0878)31-8080
●千　葉 (0472)44-8080	●京　都 (075)211-2400	●福　岡 (092)291-2266
●東　京 (03) 586-4100		

Memo

FUJI XEROX® 写楽FA1取扱説明書 NFF

著作者 —— 富士ゼロックス株式会社 1990
発行者 —— 富士ゼロックス株式会社
〒107 東京都港区赤坂 3-3-5
電話 03(585)3211

発行年月 —— 1990年 2月 第1版第1刷

Printed in Japan